

情 報

そうとポケットに忍ばせたカメラを被災者に向けて撮ることは、とうとう最後までできなかった。特に、訪問の都度、若者で賑わっていた小千谷高校の避難所に入ったときは、受験シーズンを迎えた高校生が、何時またこの校舎に戻って勉強を開始できるのだろうか、本当に心が痛んだ。

小千谷到着直後に、歯科的支援よりも避難先の高齢者の心のケアをまず第一にやって欲しいと関係者に言われた時、地震発生から6日目、いかに被災者のショックが大きいか伝わってきた。小さくうずくまって口数少なく頑張っていた高齢者に「仮設トイレが出来て良かったですね」と声掛けをしたとき、「手すりがないからそこまで行くことも、トイレに這い上がることもなかなか出来ない。」という切実な言葉が返ってきた。まさに、高齢者を多く抱えた山間型中越地震の問題点を見た思いがした。



集落での歯科相談・指導

明日で救護活動を終了するという11月20日に、最も被害の大きかった川口町の支援に入った。山間の各集落を一軒一軒訪問しながらの活動は、倒壊した家屋の片付けに茫然としている住民に声掛けするだけでも心苦しいことであった。それでも、私たち支援チームに手を休めて義歯の相談をしてくれたお年寄り、お孫さんの虫歯予防の相談をしてくださった主婦、地震のなかでも野菜が漬かっていたからとすすめて下さったお婆ちゃん、「そんなに私達に気をつかわないで、被災者は皆さんなんですから」と心で呟きながら、25日間の活動を終えた。

この救護活動は、必ずしも被災者のニーズに十分応えうるものでなかったかも知れない。しかし、被災された多くの人々の悲しみ、苦しみ、辛さを共有した私たちは、冬の生活の厳しさを心配しながら、一日も早い復興を願って、今も被災地に心を寄せている。

最後に、多くの教訓を得る機会を与えて下さった理事長、学長先生はじめ教職員の皆様に感謝し、この体験を今後の緊急時に活かしていきたいと思います。

附属歯科診療所活動報告

野村章子¹⁾、金子 潤²⁾、江川広子³⁾

附属歯科診療所

¹⁾ 診療所長 ²⁾ 副診療所長 ³⁾ 歯科衛生士長

平成16年度4月より新たに構成された診療所運営メンバーは、野村章子診療所長、金子 潤副診療所長、市川伸彦医長、江川広子歯科衛生士長、水橋庸子副歯科衛生士長である。そこに、診療所専任として歯科医師5名（非常勤2名を含む）と歯科衛生士9名、受付事務職員1名、教育系では歯科医師6名、歯科衛生士5名（非常勤1名を含む）、歯科技工士5名、学外の歯科技工所（沖歯科工業株式会社）の出向歯科技工士2名が参画している。10月1日には、日本全国でおそらく唯一の歯科診療所内ことばクリニックが開室し、伊東節子室長、診療系言語聴覚士1名、教育系言語聴覚士2名が加わった。本稿では、大学の附属施設として活動した実績を、臨床実習受け入れ状況、社会的活動、毎月1回開催の医局会セミナーおよび研究業績についてまとめた。

1. 臨床実習受け入れ状況

1) 歯科衛生士学科2年生92名

- ・実習期間：平成16年1月5日～12月28日（1グループ9～10週間）
- ・実習体制：7グループ（A～G班）ローテーションで実施
- ・実習内容：歯科予防処置法、歯科保健指導法、歯科診療補助法、歯科口腔介護法

上記の実習を習得することを目的に、

- ①充実した歯科予防処置、歯科保健指導実習
- ②マンツーマンによる歯科診療補助実習および歯科訪問診療における診療補助実習
- ③学校、事業所、介護保険施設等の歯科健診の補助および歯科保健指導実習
- ④西新潟中央病院の入院患者さんへの歯科口腔介護実習

本診療所の特性を活かした内容の実習を取り入れ、他の臨床実習先とは異なる貴重な体験をさせることができた。また、西新潟中央病院での歯科口腔介護を体験し、患者さんの健康の保持に止まらず、生活の質の向上を図れることを学んだ。そして、この活動に対して病院から感謝状を頂いた。

2) 保健言語聴覚学専攻科2年生3名

1名が6週間、ことばクリニックの言語聴覚士と

情 報

もに行動し、言語聴覚療法の実習を行った。その結果、患者さんへの対応の仕方、適切な評価、それに基づく訓練計画と実際の訓練を体得することができた。専門家として誇りを持って仕事をしていく基盤になり得ると考える。

3) 生体技工専攻科 4 名 (1 年生 2 名, 2 年生 2 名)

・患者担当制の臨床技工 7 症例

チーム歯科医療の実際について理解を深めることを目的として、すべての治療ステップの見学と患者さんとの対話を経験する実習形式で、担当歯科医師と歯科技工士教員およびティーチングアシスタントの指導のもとで技工物を製作した。義歯新製 7 症例を担当し、義歯の装着、調整、経過観察まで見学を行った後、全ての症例について、学会発表あるいは野村研究室プレゼンテーションにて報告した。この実習形式により、歯科医療に対する理解が深まり、十分な教育効果を得ることができた。

・その他の臨床技工 113 ケース

歯冠修復 77 ケース (内訳はメタルコア 22, コーピング 1, インレー 24, 全部鑄造冠 15, ブリッジ 7, 硬質レジン前装冠 1, その他 7), 有床義歯 36 ケース (個人トレー 13, 咬合床 4, 義歯試適 10, 義歯完成 4, 義歯修理 2, ゴシックアーチトレーサー 1, プリーチングカスタムトレー 2)

平成 16 年 9 月 1 日より生体技工専攻生に対する臨床技工指導は教育系歯科技工士教員が主に担当することになり、出向歯科技工士はティーチングアシスタントの立場から臨床経験を活かして指導の補助を行うこととなった。このことにより卒業即戦力となる歯科技工士の育成が可能になると考える。

4) 歯科技工士学科 2 年生 16 名 (能力別実習指導のため、実技判定試験により選抜されたグループ 16 名)

・選抜グループ生は歯科技工室での臨床技工および歯科診療所での見学実習を通して歯科治療の中で技工との関わりやチーム医療の重要性について理解を深めることを目的に実施した。今回の臨床実習を通して患者を主体としたチーム医療の重要性が理解され、今後の臨床技工に活かしてくれるものと確信している。

・有床義歯技工 24 ケース (咬合器装着 10, 個人トレー 11, 排列・形成 3)

・歯冠修復技工 12 ケース (暫間修復物 4, メタルコア 3, インレー 5)

2. 社会的活動

実施期間は平成 16 年 4 月～10 月、実施場所は新潟市立曾野木中学校、新潟市立両川中学校、有明荘、もぐら工房、しんあい園、小針荘、みそのびあ、寺尾荘、有明ハイツ、うちの桜園、有明園の 11 施設であった。派遣のべ人数は歯科医師 15 名、歯科衛生士 13 名、歯科衛生士学科 2 年実習生 35 名であった。

3. 医局会で実施したセミナー等

- 1) 明倫短期大学附属歯科診療所における医療の質の向上と経営の合理化について (野村章子所長)
- 2) CRC 歯周外科セミナー出席報告 (新家由香歯科医師)
- 3) 社会保険勉強会—基本的な保険請求の流れについて— (市川伸彦医長)
- 4) 救急蘇生法研修 3 回シリーズ (新家由香歯科医師, 吉澤 薫歯科医師)
- 5) X 線撮影装置操作実習 (朝日レントゲン工業 (株) 天野泰平氏)
- 6) 歯科矯正治療について (花田晃治教授)
- 7) 口蓋裂診療班について (伊東節子ことばクリニック室長)
- 8) 言語治療について (青木さつき言語聴覚士)
- 9) 社会保険勉強会—指導における指摘 2003 年版— (市川伸彦医長)
- 10) PMTC の基礎と応用 (小倉英理歯科衛生士)
- 11) ホワイトニングのカウンセリングとアシストについて (池田紘子歯科衛生士)
- 12) ホームホワイトニングの選択基準 (金子 潤副所長)
- 13) 外科的矯正治療の流れについて (新潟大学大学院 朝日藤寿一先生)
- 14) 咬合の確立—クラウンについて— (五十嵐雅子歯科技工士, 野村章子所長)

4. 研究業績等

附属歯科診療所スタッフの業績について掲載する。

論文

- 1) Egawa, H., Kobayashi, K., Honma, K. Ueki, K., and Shimokobe, H. : Training of Fingertip Tactile Sensation for Scaling and Root Planing, Dental Health, vol. 43, No.6 : 8-10, 2004

発表

- 1) Egawa, H., Kobayashi, K., Honma, K. Ueki, K., and Shimokobe, H. : Training of Fingertip Tactile Sensation for Scaling and Root Planing, 16th International Symposium on Dental Hygiene, July, 2004, Madrid

情 報

- 2) 金子 潤, 池田紘子, 木暮ミカ, 元吞昭夫: 漂白効果の評価法に関する研究—測色法とシェードガイド法の比較—. 第12回日本歯科色彩学会学術大会, 2004年7月, 東京
- 3) 五十嵐雅子, 長谷川成男, 植木一範, 高見大介, 野村章子: クラウンの製作過程における咬合接触関係の推移—全部鑄造冠の咬頭嵌合位—. 日本歯科技工学会第26回学術大会, 2004年8月, 新潟
- 4) 井上 篤, 植木一範, 野村章子, 五十嵐雅子: 技工室の照明測定と照度基準との比較検討. 日本歯科技工学会第26回学術大会, 2004年8月, 新潟
- 5) 伊藤圭一, 野村章子, 丸山 満, 中澤孝敏, 佐々木 聡, 高見大介: 学生評価による各種人工歯排列の比較・検討. 日本歯科技工学会第26回学術大会, 2004年8月, 新潟
- 6) 丸山 満, 野村章子, 伊藤圭一, 高見大介: チーム歯科医療を学ぶための専攻科臨床実習. 日本歯科技工学会第26回学術大会, 2004年8月, 新潟
- 7) 江川広子, 小林 梢, 本間和代, 植木一範, 下河辺宏功: スケーリング・ルートプレーニングテクニックのための指頭感覚の訓練. 明倫短期大学学会第11回月例研究会, 2004年9月, 新潟
- 8) 市川伸彦, 白川淳子: 心の病気—歯科臨床から見て—. 明倫短期大学学会第12回月例研究会, 2004年10月, 新潟
- 9) 野村章子, 金谷 貢, 熊倉喜久夫, 高見大介: 残存歯や歯周組織に優しく審美的でコンパクトな義歯の歯科理工学的設計基準. 第20回日本歯科医学会総会, 2004年10月, 横浜
- 10) 池田紘子, 野崎怜美, 金子 潤, 木暮ミカ: 測色法とシェードガイド法による漂白効果の評価について. 第3回明倫短期大学学会学術大会, 2004年12月, 新潟
- 11) 本間和代, 江川広子, 小林 梢, 山上洋子, 村山真弓: 家族構成からみた要介護者の口腔状態と歯科受療行動への支援. 第3回明倫短期大学学会総会・学術大会, 2004年12月, 新潟
- 12) 青木さつき, 山崎 明, 永山善久, 臼田東平, 成田奈美子, 押木利英子: 極低出生体重児に対するK-ABC測定の有用性の検討. 第49回日本未熟児新生児学会, 2004年12月, 横浜

講演会・シンポジウム

- 1) 野村章子, 佐々木 聡, 伊藤圭一, 治部田幸範, 水橋庸子, 松原万里子: 患者さんが満足する入れ歯づくり. 明倫短期大学公開シンポジウム, 2004

年10月, 新潟

- 2) 青木さつき: 新潟大学教育人間科学部附属養護学校「平成16年度特別支援教育研究会」ワークショップ, 2004年11月, 新潟

その他

- 1) 野村章子, 江川広子, 石崎 愛, 生野美絵, 和田麻衣子, 大井秀一, 森田知治, 小竹利典: OKIデンタルフェア2004出展. 2004年5月, NOCプラザ, 新潟
- 2) 金子 潤, 本間和代, 石崎 愛, 和田麻衣子, 佐々木 聡, 水橋庸子, 小林 梢, 白川淳子, 生野美絵, 小林香菜子, 小出公子, 野崎怜美, 皆川朋美, 渡辺高志, 森田知治, 小竹利典, 早川春彦, 内山綾子: 第4回Academy of Cosmetic Oral Care総会・学術講演会大会スタッフ, 2004年9月, 新潟市民プラザ, 新潟

野村研究室プレゼンテーション抄録

平成15年1月より開設された野村研究室（歯科技工士学科 野村章子）において、本学教員の研究活動支援および歯科技工士学科専攻科生体技工専攻における臨床ゼミの一環としてスタートした。当初は参加者数が10名程度で、膝をつき合わせての議論が熱っぽくなされた。テーマ4からは、学外からの参加もあって15名と増え、臨床歯科技工色が濃くなったので附属歯科診療所歯科技工室に移ってしばらく開催した。その後、学生の参加や学会演題の予演にも対応するように、テーマ9からは本学1号館第二会議室や6号館第7講義室を使用するようになって今日まで21テーマを終了した。参加のべ人数は329名であった。回を重ねる毎に、発表技法すなわちテーマの的確さ、内容の簡潔性、PC活用など多くの成果を収めることができた。

テーマ1：平成15年4月4日

少数中間欠損の治療オプションにおける1提案とその技工—近遠心鉤義歯について—

歯科技工士学科 野村 章子

1 歯欠損症例の治療法は多種多様であり、それぞれのメリット・デメリットを考慮しつつ、患者個別の処置方針を決定することが大切である。その中で、私は欠損部隣在歯歯質の温存や治療の簡便性を特に優先し、クラスプ形態に工夫した可撤性義歯の臨床的有用性に着目している。この義歯では、床の一部と近遠心